

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第88号

平成26年 1・2・3月



薬師如来坐像(三重・見徳寺)

特別陳列

おん祭と
春日信仰の美術

～1月19日(日)
西新館

お水取り

2月8日(土)～
3月16日(日)
西新館

特集展示

新たに修理された文化財
～1月19日(日) 西新館
いにしえの東北
～豊岡遺跡と平泉～
2月8日(土)～3月16日(日)
西新館

名品展

珠玉の仏たち
通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器
通期開催
青銅器館

特別陳列

おん祭と 春日信仰の美術

～1月19日(日)～

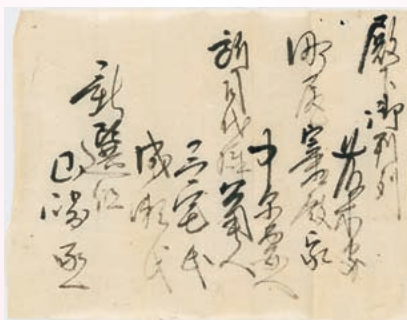
毎年恒例の本展示は今年で8回目になります。これまでに田楽や競馬、相撲、あるいは祭礼図屏風などおん祭りに関わるテーマを紹介してきました。今年はおん祭で流鏑馬を奉仕してきた「大和土」を特集しています。伝統と格式、武芸と敬神に尽くしてきた旧家に伝わる品々をご紹介します。また、春日信仰の広がりを示す名品も揃えました。初詣や年始のお休みに合わせてお出かけ下さい。



◎秋草蒔絵手箱(奈良・春日大社)



随兵甲冑(奈良・春日大社)



新撰組山崎丞切紙(個人蔵)



瑠璃燈籠(奈良・春日大社)



春日若宮御祭礼絵巻 上巻 部分(奈良・春日大社)

特集展示

新たに修理された文化財

～1月19日(日)～

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財を継承していくために、収蔵品(館蔵品・寄託品)について毎年計画的に修理を実施しています。

本展示は、近年修理を受けた収蔵品の中から選りすぐった作品を公開し、あわせてその修理内容をパネルで紹介するものです。この展示を通じて、文化財修理に関する博物館の取り組みを知っていただければ幸いです。



修理中の南無仏太子立像(当館)



修理中の日吉山王垂迹神曼荼羅(京都・曼殊院)

特別陳列

お水取り

みずと
2月8日(土)～3月16日(日)

奈良に春を呼ぶとされる東大寺二月堂の「お水取り」。正式には修二会といひ、二月堂本尊である十一面観音に罪過を懺悔して除災招福を祈る、悔過という行法が行われます。

この法会は、東大寺の実忠和尚が天平勝宝四年（七五二）に創始した十一面観音悔過の行法に始まるとされ、以来不退の行法として長い歴史を刻んできました。

練行衆と呼ばれる僧侶は潔斎を経てこの法会に臨み、秘仏である十一面観音に祈りを捧げます。現在では、二月二十日から月末までの前行（別火）、三月一日から十五日までの本行を合わせ、約一ヶ月間にわた

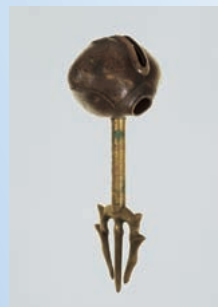
り様々な儀礼が続きます。

この特別陳列は、修二会が行われる時期にあわせ、関連する彫刻・絵画・書跡・工芸品・考古遺品を展示するものです。各時代の練行衆が残した記録や、十一面観音の姿を描く絵画は、その歴史と信仰を伝え、また実際に使用された法具や法衣は、精進潔斎し行に臨む練行衆の姿を浮かび上がらせます。

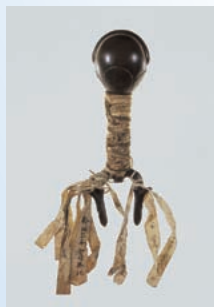
この展覧会を通して「お水取り」への理解をさらに深め、その伝統と魅力を感じ取っていただければ幸いです。



◎香水杓（奈良・東大寺）



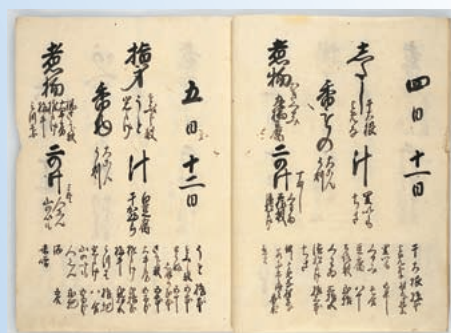
金銅三鈷鑊（咒師鈴）（奈良・東大寺）



◎銅三鈷鑊（堂司鈴）（奈良・東大寺）



二月堂曼荼羅（奈良・東大寺）
展示期間 2/25～3/16



◎二月堂修中献立控（奈良・東大寺）



二月堂縁起 上巻 部分（奈良・東大寺）

特集展示

考古資料相互活用促進事業

いにしえの東北

～豊岡遺跡と平泉～

2月8日(土)～3月16日(日)

当館では毎年、各地の博物館や展示施設とお互いの所蔵品を展示しあう考古資料相互活用促進事業を行っており、今年度は岩手県立博物館と平泉文化遺産センターの所蔵品を展示します。

東北地方北部では縄文時代晩期に亀ヶ岡文化と呼ばれる非常に洗練された土器や土偶などを作る文化が発展します。今回は完形の遮光器土偶など岩手県北部における代表的な縄文遺跡として有名な豊岡遺跡の出土品（岩手県立博物館蔵）を当館所蔵の小野コレクションの縄文遺物とともに展示します。

また、平成二十三年に世界文化遺産に登録された平泉一帯の遺跡からの出土品（岩手県平泉町蔵）を、当館の館蔵品や寄託品の中尊寺に關わる国宝の装飾経や絵画、荘嚴具とともに展示します。いずれも奥州藤原氏が栄えた平安時代末期（十二世紀）のもので、華やかな中尊寺の遺品とともに当時の貴族や庶民の生活を髣髴とさせる品々に注目です。奈良では目にする機会の少ない、みちのくの文化をお楽しみください。



豊岡遺跡の出土品

斑文が描かれた如意

永井 洋之（学芸部研究員）

昨夏、中国・上海博物館との学術交流で他二名の職員と中国へ派遣された。上海博物館と当館は学術交流の協定を結んでおり、毎年、相互に職員を三名派遣する交流が二十年以上続いている。滞在中は上海博物館の職員が同行し、派遣される職員の業務に関する視察と各人の研究に関係する博物館、遺跡等を見学する。上海博物館によって事前に調整していただいていることから、非常に有意義な見学の機会となっている。今回の滞在では上海、西安、敦煌、杭州、寧波をまわった。二〇一一年夏に開催した特別展「天竺（てんしゆ）三蔵法師3万キロの旅」で模写を展示した榆林窟や東千仏洞に



榆林窟第25窟 文殊菩薩騎獅像（部分）描起し図

描かれた玄奘（げんじやう）の姿の原品を見てみたいと思い、敦煌を見学地の一つに選んだ。日程の都合上、敦煌にはわずか二日間の滞在であったが、敦煌の四大石窟（莫高窟・榆林窟・西千仏洞・東千仏洞）を見学することができた。目的の玄奘が描かれた石窟は修理中で見学できなかったところもあるが、それとは別に今回見学できた石窟のなかで壁画に描かれた文殊菩薩が持つ如意に興味深いものが見られた。

如意は僧侶が法会や仏教儀式の際に手にする僧具で、もともと手の届かない場所を搔（か）いたりするために用いた爪杖（つまづえ）と呼ばれる日用品が仏教に取り入れられて威儀（いぎ）を整えるための用具となったと説明される。また文殊菩薩の持物としても知られている。奈良時代の作例として正倉院の南倉に伝わる玳瑁（たいぼ）犀角（さいかく）（サイの角）、斑犀（はんさい）（斑のあるサイの角）、そして昨年出陳された鯨鬚（くじろ）を用いたものや、東京国立博物館所蔵の法隆寺献納宝物に見られる水牛角製のものがある。先はいずれも扇状に広がり、爪状に先端を曲げたいわゆる孫の手のかたちである。平安時代になると先は雲形となり、東大寺や聖衆来迎寺に動物質の素材を用いたものが伝わるものの、先が金属製のものへと変わっていく。

今回紹介する如意は、榆林窟第二十五窟の壁画に文殊菩薩の持物として描かれたものである。この第二十

五窟は前室や甬道（ようどう）は修理や重ね描きが施されているが、主室は唐時代の姿が保たれており、壁画は中唐期の制作と考えられている。文殊菩薩は獅子に乗り左手に如意を持つ騎獅像で、出入口を挟んで普賢菩薩騎象像と対をなす位置に描かれている。

如意の先端は扇状に広がり、爪を大きく巻き込むような形状をしている。このような形状の如意は、わが国では奈良時代までのものに見られるものと同じである。さらに扇状に広がる先端部を見ると表面に斑文（もん）が描かれている。これは如意の材質を意図した表現と見られ、正倉院に伝わる玳瑁如意にも斑文が見られることから、この如意も玳瑁製の如意を描いたものと理解される。正倉院には玳瑁や犀角など希少な材料を用いて作られた如意がいくつも伝わっているが、これまで中国での使用例をうかがわせる好例は紹介されていなかった。また、唐時代の如意の作例として陝西省・法門寺舍利塔地宮から発見された銀製の如意二柄があり、そのうち一柄には咸通十三年（八七二）に宮廷用の金銀器制作をしていた文思院で作られた刻銘が見られるが、先は二柄とも雲形で正倉院に伝わる如意とは形状が異なっており、以前から唐時代の如意の形について関心を持っていた。

榆林窟第二十五窟の文殊菩薩像は中唐期の騎獅像の作例としてすでに紹介されているが、持物の如意の先が扇状の形で玳瑁製を思わせる表現で描かれているとわかったことは、今回の交流で得た思いがけない収穫であった。

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

12月25日(水)～

なら仏像館

【大和の仏たち】 第1室

地蔵菩薩立像 新薬師寺

○十一面観音菩薩立像 西光院

○観音菩薩立像 勝林寺

○十一面観音菩薩立像 文化庁

○十一面観音菩薩立像 勝林寺

○弥勒菩薩坐像 地福寺

○阿闍如来坐像 薬師寺

○明星菩薩立像 西大寺

○広目天立像 弘仁寺

○多聞天立像 興福寺

地蔵菩薩立像 当館

○十一面観音菩薩立像 万福寺

天部形立像 元興寺

●法華説相図 兵庫県

○文殊菩薩坐像 長谷寺

○十二神将立像(辰神・未神) 室生寺

特別公開

【定朝様の丈六阿弥陀像】

阿弥陀如来坐像 第1室

【如来の種々相】 第2室

阿弥陀如来坐像 外山区

○阿弥陀如来立像(裸形) 見徳寺

○阿弥陀如来立像 浄土寺

○阿弥陀如来立像 個人

○阿弥陀如来立像 東大寺

○阿弥陀如来立像 浄教寺

宝冠阿弥陀如来坐像 金剛寺

○釈迦如来立像(清凉寺式) 安楽寿院

○釈迦如来立像(清凉寺式) 当館

薬師如来坐像 大慈仙町自治会

【肖像】 第2室

○法相六祖坐像(伝行賀) 興福寺

○法相六祖坐像(伝神寂) 興福寺

○重源上人坐像 浄土寺

善導大師坐像 當麻寺念佛院

特別公開

【金剛寺 降三世明王坐像】 第3室

○降三世明王坐像 金剛寺

【中国の石仏】 第4室

○如来三尊像 当館

○如来三尊像 個人

○十一面観音菩薩立像 当館

如来立像 個人

如来九尊像 個人

如来坐像 個人

【中国・朝鮮半島の金銅仏】 第4室

二仏並坐像 当館

如来坐像 個人

力士立像 個人

菩薩立像 個人

菩薩立像 個人

十一面観音菩薩立像 個人

天部坐像 個人

獅子 個人

○如来立像 光明寺

如来立像 当館

阿弥陀如来坐像 崇久寺

【菩薩・明王】 第6室

○観音菩薩立像 文化庁

菩薩坐像 文化庁

地蔵菩薩立像 十市町自治会

○地蔵菩薩立像 春覚寺

○不動明王坐像 園城寺

○不動明王坐像 正寿院

○愛染明王坐像 当館

軍荼利明王立像 園城寺

大威徳明王騎牛像 当館

【模造にみる飛鳥時代の宝冠】 第7室

救世観音像宝冠(模造) 当館

百済観音像宝冠(模造) 当館

四天王像宝冠(模造)「2個」 当館

【上代の金銅仏】 第8室

○誕生釈迦仏立像 正眼寺

誕生釈迦仏立像 当館

誕生釈迦仏立像 個人

如来立像 当館

○観音菩薩立像 金剛寺

○観音菩薩立像 観心寺

○菩薩半跏像 個人

○観音菩薩立像 神野寺

菩薩立像 法隆寺

興福院

【塑像と埴仏】 第8室

塑像断片 明日香村

〔奈良県川原寺裏山出土〕

塑像断片(菩薩頭部) 当館

〔奈良県定林寺出土〕

○塑像断片 薬師寺

〔奈良県薬師寺西塔出土〕

塑像断片 個人

〔滋賀県雪野寺出土〕

方形独尊埴仏(中国出土) 当館

多宝塔埴仏(中国出土) 個人

火頭形三尊埴仏 当館

〔伝奈良県橘寺出土〕

方形三尊埴仏 明日香村

〔奈良県川原寺裏山出土〕

六角形埴仏 当館

〔三重県天華寺跡出土〕

【護法の天部形】 第9室

○十二神将立像「6軀」 東大寺

○增長天立像 法明寺

○增長天立像 称名寺

○四天王立像 現光寺

【複製にみる頭塔】 第10室

頭塔石仏(複製)「3面」 当館

【神仏習合・動物彫刻】 第11室

○蔵王権現立像「3軀」 大峯山寺

○蔵王権現立像 当館

男神坐像 観音寺

童子形坐像 当館

○獅子 当館

○獅子 当館

○獅子頭部 東大寺

牛頭部 当館

【模造にみる伎楽面】 第12室

伎楽面(模造)迦楼羅・太孤父・醉胡王 当館

(原品…東大寺蔵)

伎楽面(模造)呉公 当館

(原品…正倉院宝物)

【仮面】 第13室

○舞楽面 手向山八幡宮

胡徳楽・胡徳楽瓶子取・散手 春日大社

○舞楽面 新鳥蘇・皇仁庭 当館

舞楽面 当館

二の舞・崑崙八仙 根来寺

能面 根来寺

三光尉・喝食・増女・平太・三日月 小面・千種怪士

※●Ⅱ国宝、○Ⅱ重要文化財

※出陳品は都合により一部変更する場合があります。

名品展

中国古代青銅器

(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、罍、方彝、卣、甗、鼎、鬲、鬯、豆、盤、匜、盂、壺、鐘、鈞、扁壺、蒜頭壺、甗、博山炉、鎮子、鏡、鐙など(当館)

※すべての展示において、内容を一部変更する場合があります。

武家のみやこ 鎌倉の仏像 ― 迫真とエキゾチシズム ―

4月5日(土)～6月1日(日)

治承四年(一一八〇)、平家の軍勢によって奈良の地は焼き討ちされました。このとき、東大寺の再建に心血を注いだのは大勧進俊乗房重源であり、檀越として復興事業に多大な貢献をなしたのが、新たな覇者として登場し、鎌倉に幕府を開いた源頼朝でした。

奈良の寺々において仏像の再興造立に活躍したのは、重源が重用した康慶・運慶・快慶ら慶派の仏師たちですが、彼らの仕事の場合は奈良にとどまらず、鎌倉や東国にも広がったのです。それは頼朝やその配下の御家人たちが、自らが建立した寺院の造仏に、競って彼ら慶派仏師を起用したことによるものです。

重源は、中国・宋の仏教美術を移入することに積極的でした。このため慶派の作品にも宋の影響が認められます。しかし新たに政権を握った武家の都として重きをなした鎌倉には、蒙古軍の侵攻を逃れて日本に亡命した中国僧たちによって、より直接的に宋風文化が伝えられたため、仏造像の場においても中国風の作品が陸続として生み出されたのです。

昭和三年(一九二八)に開館した鎌倉国宝館には、この地域の貴重な作品の数々が寄託・所蔵され、鎌倉や東国の仏教美術、わけても仏像の全貌を把握することのできる優れた作品が常時展観されています。

本展は、鎌倉国宝館に寄託・所蔵される仏教彫刻と仏画の優品に加え、近隣の寺院からも尊像の出陳を賜り、それらを一堂に会することによって、奈良から生まれ、鎌倉で結実した仏像の諸相の展観を目ざすものです。関東の外においてまとまって展示される初の試みであり、とりわけ鎌倉時代彫刻発祥の地ともいえるべき奈良で公開されることの意義は大きいと考えます。この機会に多くの方々のご観覧を希望するものです。



◎上杉重房坐像(明月院)



十二神将立像のうち戌神(鎌倉国宝館)



阿弥陀如来立像(淨妙寺)

◆施設改修工事にともなう東新館の休館について◆

当館では、文化財保管施設の防災・防犯機能をこれまで以上に充実させるため、ただいま大規模な改修工事をおこなっています。これにともなう、平成26年4月4日までは東新館を一時休館しております。

この期間に開催の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」および特別陳列「お水取り」は、東新館ではなく西新館が会場となりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

【特別展示】

正倉院宝庫の瓦

西新館2階休憩室

現在、正倉院宝庫は屋根の葺き替え等の改修工事を行っています。昨年秋の第65回正倉院展では、この工事で下ろした宝庫の瓦の一部を展示しておりましたが、宮内庁正倉院事務所の厚意により、春まで展示期間を延長することになりました。奈良時代から大正時代に至るまで様々な時代の瓦がご覧いただけます。特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」、「お水取り」のご観覧に併せてお楽しみ下さい。展示期間:～1月19日(日)、2月8日(土)～3月16日(日)

東大寺正倉院銘軒丸瓦
江戸時代(天保期)

飛鳥時代(七世紀後半)の作と考えられ、上代彫刻史上に占めるその価値は大きなものがある。

岩田 茂樹(当館学芸部長補佐)

【表紙写真解説】
薬師如来坐像木造 漆箔
飛鳥時代(七世紀)
三重 見徳寺

三重県の旧上野市(現、伊賀市)東郊に所在する曹洞宗寺院見徳寺に客仏として伝来した。クスノキを材と思われ、大半を一材から彫成し、内刳は行わない。

面ながの顔に配された細い目と小ぶりの鼻、上唇の薄い華奢な口が、独特の印象を形づくる。着衣の衣文はさながら板を列ねたよう、きわめて古風である。脚部の正面に表された大きな「品」字形の衣文も、飛鳥時代の作例に頻出する特徴的な表現である。

すでに指摘のあるように、本像に最もよく似た像容を示すのが、奈良・法隆寺に伝わる六観音像と呼ばれる菩薩立像(重要文化財、飛鳥時代)である。上記した顔の造作も酷似するし、六観音像の背面裾部にも大きな「品」字形衣文が見える。両者の造立にあたった工房を同一とみるための根拠となるだろう。

❖ 奈良国立博物館 公開講座 ❖

■ 特別陳列 お水取り

2月15日(土) 「不退の行法、東大寺修二会(お水取り)」

北河原 公敬 師 (東大寺長老・東大寺総合文化センター総長)

2月23日(日) 「お水取り 752-2014」

西山 厚 (当館学芸部長)

◆時間：午後1時30分～3時

(午後1時に開場し、入場券を配布します)

◆場所：当館講堂。定員194名(先着順)

◆料金：無料(ただし当館の当日観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示頂きます)

❖ サンデートーク ❖

第3日曜日は奈良博へ！

毎月1回、第3日曜日の午後に、当館研究員や専門家がとっておきのお話をいたします。美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。お気軽にご参加下さい。

聴講は無料、展覧会観覧券等の提示は必要ありません。事情により話題内容が変わることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけ下さい。

1月19日(日) 「文化財を撮る 一写真が語り継ぐもの」

佐々木 香輔 (当館学芸部資料室員)

記録・保存・表現等、文化財のために写真が出来ることは何か。

文化財と写真の関係の今まで、そしてこれからを、博物館専属カメラマンという視点からお話します。

2月16日(日) 「装飾文様のかたち」

永井 洋之 (当館学芸部研究員)

唐草文、宝相華文などをはじめとする装飾文様は、作品を一層魅力的なものとしてくれます。いくつかの文様をテーマに制作された時期による表現(かたち)の変化をお話します。

3月16日(日) 「女性と仏教」

西山 厚 (当館学芸部長)

女性は仏教に支えられ、仏教は女性に支えられてきた。仏教と女性の深い関わりを美しい画像を使って語ります。

※各回とも午後2時より午後3時30分まで。(午後1時30分に開場)
定員194名(先着順)。当館講堂にて。聴講無料

観覧料金等の変更について

消費税の引き上げに伴い、平成26年4月1日より当館でも観覧料金・パスポート料金等の変更を行うこととなりました。金額などについては後日、ホームページ等にてお知らせいたします。ご理解賜りますよう、何とぞお願い申し上げます。

文化財修理保存のためにご寄附を！

貴重な文化財を次世代に伝えるため、皆さまのご支援とご協力を仰いでおります。文化財の修理保存のための募金箱をなら仏像館に設置いたしました。500円以上のご寄附を頂いた方には、当館オリジナルの仏像ガイドブック『仏像を観る』(B5版31頁、カラー印刷)を進呈いたします。



❖ イベント情報 ❖

■ 1月2日(木)・3日(金)

各日入館者先着100名にオリジナルグッズプレゼント

■ 2月13日(木) 文化財保存修理所特別公開

・時 間：午前10時～、午後1時～、午後3時30分～
(各回とも同内容。約90分)

・申込方法：往復はがきによる事前予約。重複無効。
はがき1枚につき1名様。応募者多数の場合は抽選。各回とも定員40名

・参 加 費：無料

※受付開始は1月6日(月)から

■ 2月16日(日) お水取り「講話」と「粥」の会

・時 間：午前11時～午後3時30分(予定)

・集合場所：奈良国立博物館 講堂

・定 員：40名(先着順)

・料 金：6,000円

・内 容：

①「講話」東大寺 狭川 宗玄 師

②特別陳列「お水取り」の観覧

(解説：西山 厚 当館学芸部長)

③童子が作る茶粥(かゆ)を味わう

④東大寺二月堂の拝観

(随伴：西山 厚 当館学芸部長)

・申込方法：お電話または当館ホームページの申込画面にて

※受付開始は1月6日(月)から

※各イベントの詳細および申し込み方法は、
当館のホームページをご覧ください。お問い合わせ下さい
総務課企画推進係 Tel：0742-22-4450 (月～金の9:00～17:00)

◆奈良国立博物館賛助会

平成25年12月1日現在、一般会員(個人)40名、一般会員(団体)19団体、特別会員4団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。

【一般会員(個人)】 楠 富久美 様(平成25年11月入会)

◆キャンパスメンバーズ

平成25年12月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院文芸学研究科、実践女子大学・実践女子短期大学、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良産業大学・奈良文化女子短期大学・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部
(以上、五十音順)

青白磁碗

陶製
口径12.5cm 高4.3cm
平安時代(12世紀)
岩手・平泉町所蔵



初代清衡、二代基衡、三代秀衡、四代泰衡と連なる奥州藤原氏の本拠地として繁栄した平泉は、衣川や北上川、太田川に囲

まれた1キロ四方の場所に計画的に道路が配され、信仰の山であった金鶏山を中心として藤原氏の居館(柳之御所・加羅御所)や浄土庭園を備えた中尊寺・毛越寺・観自在王院・無量光院が次々に造営されていった。藤原氏を支えたのは豊富に産出する砂金であったことは有名で、藤原氏はその経済力をもとに中国の文物を積極的に平泉に導入したようだ。日宋貿易によってもたらされた中国陶磁は博多や京都でも多く出土し、当時の貴顕に愛されたことが偲ばれるが、都から遠く離れた平泉でも数多く出土し、当時の平泉が博多や京都に匹敵する文化を有していたことを示している。

本品は、柳之御所遺跡で出土した青白磁の碗で、中国の景德鎮窯の製品。口縁に沿って切り込みを入れた「輪花」が施されている。幅10mもの大きな堀が囲む中枢域と堀の外部の屋敷地からなる柳之御所は藤原氏が政治・行政をつかさどっていた居館「平泉館」と想定されている。本品は堀外の井戸の底から出土した。白磁や青磁に比べて比較的稀少な青白磁の碗が完形で出土したことから使わなくなった井戸を埋める際の井戸鎮めの儀式に用いられたとも言われている。この井戸が有力者の屋敷地のものであったことがうかがえる。

平泉は奈良から670キロメートル離れた場所ながら、『造興福寺記』によれば初代清衡の父経清は藤原氏の一門として興福寺の修理に関わるなど奈良との関係も浮かぶ。中国と奈良、平泉の当時の距離感は私たちが思う以上に近かったのかもしれない。

岩戸 晶子(当館学芸部研究員)

◆特集展示 「いにしえの東北～豊岡遺跡と平泉～」(2/8～3/16)にて展示

展示品の みどころ

菩薩坐像

木造 彩色・截金
像高69.1cm
平安～鎌倉時代(12世紀)
文化庁

12世紀後半の奈良仏師の手になるとみられる菩薩像。三尊像の右脇侍だったと考えられ、対をなしていた可能性のある菩薩像がアメリカ・クリーブランド美術館に存する。

精悍さのうちに穏和な風をとどめた容貌と、手足の繊細な感覚とが生み出す優美な姿は、着衣を飾るおおらかな趣致の截金文様も相まって、平安後期特有の典雅な気分をたたえる。一方で、左胸上で結び目をつくる条帛の掛け方や、背面で条帛と天衣が交叉する形式は古様であり、片足を踏下げる坐法もふくめ、古代彫刻の再現が明確に意図されている。腹部を大胆に絞り、胸のゆたかなふくらみを強調した健康美あふれる上体もまた、奈良時代の仏像を意識したものだろう。蓮華と蔓状の紐からなる胸飾や臂釦の意匠も目を引くが、これほど個性的で具象性に富んだ装身具は、他に例をみない。

治承4年(1180)の焼討ち以前の南都には、由緒と霊験を兼ねそなえた天平彫塑が今にもまして数多く存在したに違いない。いまだ定朝様が支配的だった平安後期にあつて、そうした古仏を範とし本像に生氣を吹き込んだと仏師の意欲が伝わってくるようだ。作風にみるとおり奈良地方にゆかりの像とすれば、やがて運慶・快慶らにより完成される鎌倉新様式が、12世紀後半の南都でたしかに胎動していたことをしめす一遺品といえるだろう。

山口 隆介(当館学芸部研究員)



開館日時(1月～3月)

■開館時間

午前9時30分～午後5時

〔開館時間延長日〕

- ・午後8時30分まで—2月8日(土)～14日(金)
- ・午後7時まで—1月25日(土)、2月3日(月)
3月12日(水)
- ・午後6時まで—3月1日(土)～11日(火)
3月13日(木)・14日(金)

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

■休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日や振替休日の場合は、その翌火曜日が休館)、1月1日
※1月13日、2月3日・10日、3月3日・10日は月曜日ですが開館します

観覧料金

名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	500円	250円	無料
団体	400円	200円	無料

※団体は20名以上です。

※満70才以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※2月3日(月)は無料観覧日で、すべての方が無料でご覧になれます



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

奈良国立博物館
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

